



1年を振り返って 2020年はコロナの影響なのか、8月に入り急激に宿泊施設利用者が減り、一時は13人入居できる施設に4~6人という状況が続き、施設運営に危機感を覚えるまでになりました。幸い9月に入り次第に宿泊希望者が増え、11月にはほぼ満室になる日もあってやっと安堵出来る様になりました。本当に8~10月の宿泊者の減少は、風の家始まって以来の大事件でした。また、地域活動支援センターⅢ型事業である作業所もそのあおりを受けたのか、内職業者からの依頼が激減し、作業所内で実施する内職作業が無くなり開店休業状態になる時期がありました。年間のイベント及び季節行事も、感染予防の観点から自粛せざるを得ず、風を家のスタッフ及び利用者ともに不安を抱えた1年でした。次第にコロナの波と社会情勢が落ち着きはじめてからは少しずつではありますが、内職作業の受注も戻り始めており、風を家の作業所としての日常が戻りつつあります。

風を家での研究活動 昨年、三菱財団から頂いた研究助成金で「**自立が困難な矯正施設退所者の社会復帰に資する動的要因の保護因子に関する調査研究事業**」を風を家の職員でもある甲南大学、神戸松蔭女子学院大学大学院 非常勤講師 浅田慎太郎が実施し、事業報告書を作成しました。この事業報告は風を家が設立当初より取り組んでいる再犯防止に関し、風を家の宿泊施設利用者で矯正施設出所者が、再犯に至るか至らないかにどの様な要因が関与しているかの調査で、再犯防止の一助となる何かが見出せればと思っ実施しました。この報告書を以前フォーラムに参加いただいた方々、ご寄付を頂いた方々及び会員の方々に風を家の活動を知って頂けると思い配布いたしました。

その結果多くの方々からご寄付や応援メッセージを頂き感謝しております。メッセージの一部をご紹介します。

- 再犯率の高さがいわれながらも取り組まれている課題に敬服しております。帰る所がある事は大事な事ですね。
- 個々の方々を理解し、支援する。そういう民間の場が必要なこと、根気よく対することが必要と思います。
- 先生方の研究に感謝します。再犯からの離脱は対人関係が大切だと思います。又、関係されている皆様の支援が改めて必要だと思いました。
- 最も傷ついていると思われる方たちへの支援ありがとうございます。支援について、研究という形での情報の蓄積は社会の正しい理解を促すためにも必要なことですので、ぜひご継続いただけましたら。

このほかにもたくさんのご意見をいただきました。今後も再犯防止活動に邁進してまいりますのでどうぞよろしくお願い致します。

季節行事

お茶会 2月には長年風を家にて勤めていただいている調理員さんが主体となって、作業所の皆さんとともに茶道を体験するイベントを行いました。お茶を飲む時以外はマスクを着用し、作法を学ぶために会話は最小限という形ではありますが、久しぶりに皆さんが同じ机を囲んでいる姿を見ることが出来て嬉しく感じました。少しずつ日常が戻っていくことを願います。



コロナと寂しさ 心理士として風の家に通って、早いことで1年となりました。当施設を経て自立していく人を見届けていくなかで、多くの利用者が根深い孤独感を抱えてこれまで過ごされていた体験をよく耳にしました。

なかでも心理臨床の現場では、薬物を常習使用することを「痛みへの自己治療」と解釈する考え方があります。頭が痛い時に頭痛薬を飲むように、心の痛みを薬物で癒そうとしているというものです。私は当施設で臨床経験を積み始めたばかりですが、当事者の抱える心の孤独な痛みの大きさと深さに、時折圧倒されてしまいました。

人はみな孤独とともに生きていきます。普段何気なく関わることが出来ていた家族や友人も、去年より発生したコロナウイルスの影響によって会うことがかなわなくなった方も多いのではないのでしょうか。自粛期間中は誰しも寂しさを抱える時間になったのではないかと思います。そんな時、皆さんはどんな風に一人の時間を過ごされたのでしょうか。家の掃除をしてみる、趣味の音楽を聴いてみる、はたまた家で出来る仕事を模索してみる...いろんなことを試みて、一人であることと向き合われた、あるいは寂しさを紛らわせていたのかもしれませんが。

人間は生まれた時には周囲の助けが無ければ生きていくことが出来ません。そのため赤ん坊には本能として“微笑む”という力が備わっています。周囲から愛されることによって、自分が生きることが出来ると知っているのです。

そしてもう少し大きくなると、コケてしまったり、嫌なことがあれば親にむかって目いっぱい泣きます。子どもは親の前で泣くことで、気持ちを一緒に抱え、慰めてくれることを学んでいるからです。そうして成長し、やがては一人で辛い体験をしても、子どもの頃の親との温かい体験を糧に一人で乗り越えることが出来ていくのです。一方で、幼少期からの虐待を受けている子どもは表情の変化に乏しいという傾向がみられます。微笑んでも泣いても、周囲から助けが得られないのであれば表情を出すことは何も意味をなさないのです。助けを求める術を知らないまま育ち、寂しさの痛みを抱えきれなくなれば、人はお酒や煙草、そして薬物で紛らわせることで生き延びていきます。

みなさんは寂しさを感じた時、どのように過ごすでしょうか。家族へ電話をする、長く行っていなかった場にふらりと立ち寄ってみる、そうした何気ない私たちの行動が、誰かの心を温めることに繋がるのかもしれませんが。



今年度頂いた皆様からのご寄付、誠にありがとうございます。

自立更生・再犯防止のために今後も邁進してまいります。

- ・赤山幸一様
- ・イケダ機工株式会社様
- ・磯部みねよ様
- ・大石禮子様
- ・オダサクラ様
- ・大村博様
- ・神尾雅志様
- ・神垣千恵子様
- ・河島美江子様
- ・木原正壽様
- ・後藤三歌様
- ・坂田爽子様
- ・竹本様
- ・社会福祉法人光の園様
- ・高木佐和子様
- ・田部修司様
- ・天地真隆様
- ・土谷尚様
- ・滑川和也様
- ・西井一宜様
- ・仁井恭子様
- ・二井田様
- ・日本バプテスト広島キリスト教会様
- ・鈴川千賀子様
- ・久保様
- ・広瀬祥子様
- ・川岡とし子様
- ・牧野正夫様
- ・松岡伸子様
- ・水檜美恵子様
- ・みどりの風サービスセンター様
- ・森山正子様
- ・山岸文恵様
- ・有限会社ピーアンドピー様
- ・吉村幸子様
- ・米田和子様
- ・吉宗政勲様

特定非営利活動法人 風の家 〒730-0843 広島市中区舟入本町 17-8

☎ 082-232-6696 FAX 082-942-0677 ✉ buratto-hiroshima@wine.ocn.ne.jp